

定期作況報告（最終）

（第7号 平成17年11月20日）
北海道立上川農業試験場

1. 気象概況

《平成16年》

11月：平年より最高気温は各旬とも各々3.7、3.0、1.0 高く、最低気温は各旬とも各々2.9、2.3、0.7 高かった。平年より降水量は上旬、下旬が各々22.5、3.1 少なく、中旬が39.1 多く、日照時間は、上旬、中旬が各々12.3時間、3.5時間多く、下旬が1.2時間少なかった。

12月：平年より最高気温は上旬、中旬が各々2.6、1.8 高く、下旬が1.0 低く、最低気温は上旬、中旬が各々1.9、1.0 高く、下旬は1.2 低かった。平年より降水量は各旬とも各々26.0mm、15.9、3.8 多く、日照時間は各旬とも各々11.7時間、6.5時間、0.1時間少なかった。

《平成17年》

1月：平年より最高気温は上旬、中旬が各々0.1、0.8 高く、下旬が0.1 低く、最低気温は上旬、中旬が各々0.3、0.2 低く、下旬が0.4 高かった。平年より降水量は上旬、下旬が各々3.8mm、18.0mm多く、中旬は11.9 少なく、日照時間は上旬が8.0時間少なく、中旬、下旬が各々5.0時間、1.8時間多かった。

2月：平年より最高気温は上旬が1.9 高く、中旬、下旬が各々2.1、3.0 低く、最低気温は上旬が2.5 高く、中旬、下旬が各々2.4、0.4 低かった。平年より降水量は上旬が6.1mm少なく、中旬、下旬が各々6.5、3.9 多く、日照時間は各旬とも各々6.4時間、5.1時間、8.7時間少なかった。

3月：平年より最高気温は各旬とも各々0.2、0.1、0.7 低く、最低気温は各旬とも各々2.9、1.2、1.0 高かった。平年より降水量は上旬、中旬が各々5.1、0.9 多く、下旬が1.3mm少なく、日照時間は上旬が7.3時間多く、中旬、下旬が各々13.3時間、6.0時間少なかった。

4月：平年より最高気温は各旬とも各々1.2、1.8、2.8 低く、最低気温は上旬、下旬が各々0.5、0.3 高く、中旬が1.0 低かった。平年より降水量は上旬、下旬が各々5.8、3.2 多く、中旬が9.6mm少なく、日照時間は各旬とも各々25.7時間、2.7時間、20.9時間少なかった。

5月：平年より最高気温は各旬とも各々5.9、3.7、0.7 低く、最低気温も各旬とも各々1.4、3.2、1.6 低かった。平年より降水量は上旬、中旬が各々5.4、11.3 多く、下旬は13.8mm少なかった。日照時間は上旬が30.5時間少なく、中旬、下旬が各々6.7時間、8.3時間多かった。

6月：平年より最高気温は各旬とも各々3.3、2.7、3.0 高く、最低気温も各旬とも2.0 高かった。平年より降水量は上旬、下旬が各々24.6mm、10.4 少なく、中旬が28.9 多く、日照時間は上旬が3.3時間少なく、中旬、下旬が各々20.1時間、18.0時間多かった。

7月：平年より最高気温は上旬、下旬が各々1.0、0.8 低く、中旬が0.6 高く、最低気温は上旬、下旬が各々1.7、0.6 低く、中旬が0.8 高かった。平年より降水量は各旬とも各々35.1mm、10.5mm、16.7 少なく、日照時間は各旬とも各々3.5時間、7.0時間、15.8時間少なかった。

8月：平年より最高気温は各旬とも各々3.3、3.3、0.4 高く、最低気温も各旬とも各々2.7、2.4、0.1 高かった。平年より降水量は上旬、下旬が20.4、95.7mm多く、中旬が5.7 少なく、日照時間

は各旬とも各々11.9時間、13.2時間、7.6時間多かった。

9月：平年より最高気温は上旬、中旬が各々0.2、1.3高く、下旬が並、最低気温は上旬、下旬が各々0.5、0.4低く、中旬が1.3高かった。平年より降水量は上旬が2.5mm多く、中旬、下旬が各々14.3mm、27.4mm少なく、日照時間は各旬とも各々11.7時間、3.8時間、2.4時間少なかった。

10月：平年より最高気温は各旬とも各々1.2、3.6、1.6高く、最低気温は上旬が0.3低く、中旬、下旬が各々0.7、1.0高かった。平年より降水量は上旬が8.3mm多く、中旬、下旬が各々14.1、16.6mm少なく、日照時間は、各旬とも各々13.6時間、30.4時間、5.7時間多かった。

根雪終は4月16日で、平年より5日遅く、積雪期間が平年より3日長かった。耕鋤始は4月25日で平年より4日遅かった。晩霜は5月14日で、平年並であった。（表1）。

平成16年11月から平成17年10月までの気象は表2の通りである。

表1 季節

	初霜 (前年)	降雪始 (前年)	根雪始 (前年)	根雪終 (月日)	積雪期間 (日)	降雪終 (月日)	耕鋤始 (月日)	晩霜 (月日)
本年	10.18	10.23	11.27	4.16	141	5.15	4.25	5.14
平年	10.11	10.24	11.25	4.11	138	4.23	4.21	5.14
比較	7	1	2	5	3	22	4	0

注1) 本年は平16～17年の値。

2) 根雪始、根雪終、積雪期間、耕鋤始は比布圃場の観測値。平年は過去10か年の平均値。

3) 初霜、降雪始、降雪終、晩霜は旭川市の観測値。平年は過去10か年の平均値。

4) 印は平年に比べて早いおよび短いを示す。

表2 平成17年度気象表

(上川農試)

年 月 旬	最高気温()			最低気温()			平均気温()			降水量(mm)			降水日数(日)			日照時間(hr)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
平成16 上	116	79	37	3.0	0.1	2.9	7.1	3.9	3.2	175	40.0	22.5	7.0	6.7	0.3	32.0	19.7	12.3
11 中	7.0	4.0	3.0	-0.1	-2.4	2.3	3.4	0.9	2.5	77.0	37.9	39.1	7.0	6.5	0.5	19.1	15.6	3.5
下	3.9	2.9	1.0	-2.9	-3.6	0.7	0.2	-0.5	0.7	36.0	39.1	3.1	5.0	6.5	1.5	19.6	20.8	1.2
上	1.4	-1.2	2.6	-5.5	-7.4	1.9	-1.3	-4.1	2.8	55.0	29.0	26.0	9.0	7.6	1.4	6.9	18.6	11.7
12 中	-1.4	-3.2	1.8	-9.0	-10.0	1.0	-5.0	-6.2	1.2	45.5	29.6	15.9	8.0	7.5	0.5	7.5	14.0	6.5
下	-4.5	-3.5	1.0	-12.0	-10.8	1.2	-7.8	-6.8	1.0	30.0	26.2	3.8	9.0	8.0	1.0	17.7	17.8	0.1
平成17 上	-4.1	-4.2	0.1	-12.7	-12.4	0.3	-7.3	-7.9	0.6	25.5	21.7	3.8	9.0	6.6	2.4	12.3	20.3	8.0
1 中	-4.5	-5.3	0.8	-14.5	-14.3	0.2	-9.4	-9.3	0.1	4.5	16.4	11.9	2.0	6.1	4.1	29.7	24.7	5.0
下	-5.1	-5.0	0.1	-13.6	-14.0	0.4	-8.8	-8.9	0.1	40.0	22.0	18.0	8.0	6.5	1.5	32.8	31.0	1.8
上	-2.5	-4.4	1.9	-11.4	-13.9	2.5	-6.6	-8.7	2.1	9.0	15.1	6.1	5.0	5.6	0.6	30.5	36.9	6.4
2 中	-5.5	-3.4	2.1	-15.4	-13.0	2.4	-10.1	-7.6	2.5	22.5	16.0	6.5	5.0	5.6	0.6	32.6	37.7	5.1
下	-4.6	-1.6	3.0	-12.8	-12.4	0.4	-8.5	-6.8	1.7	16.0	12.1	3.9	6.0	3.1	2.9	31.7	40.4	8.7
上	-1.5	-1.3	0.2	-9.0	-11.9	2.9	-5.4	-6.1	0.7	24.5	19.4	5.1	7.0	5.3	1.7	53.4	46.1	7.3
3 中	1.6	1.7	0.1	-6.7	-7.9	1.2	-2.0	-2.8	0.8	17.5	16.6	0.9	5.0	5.5	0.5	32.1	45.4	13.3
下	3.1	3.8	0.7	-4.1	-5.1	1.0	-0.2	-0.5	0.3	15.5	16.8	1.3	5.0	4.6	0.4	45.7	51.7	6.0
上	5.6	6.8	1.2	-2.5	-3.0	0.5	1.6	2.0	0.4	20.5	14.7	5.8	4.0	4.3	0.3	27.4	53.1	25.7
4 中	8.3	10.1	1.8	-1.2	-0.2	1.0	3.3	4.8	1.5	12.5	22.1	9.6	2.0	3.5	1.5	46.5	49.2	2.7
下	11.2	14.0	2.8	2.0	1.7	0.3	6.5	7.8	1.3	19.0	15.8	3.2	3.0	2.9	0.1	29.8	50.7	20.9
上	9.8	15.7	5.9	1.9	3.3	1.4	5.7	9.3	3.6	40.0	34.6	5.4	6.0	3.9	2.1	26.1	56.6	30.5
5 中	14.4	18.1	3.7	3.1	6.3	3.2	8.6	12.1	3.5	35.0	23.7	11.3	4.0	3.5	0.5	57.3	50.6	6.7
下	19.4	20.1	0.7	6.9	8.5	1.6	13.2	14.2	1.0	16.5	30.3	13.8	3.0	4.1	1.1	60.6	52.3	8.3
上	23.6	20.3	3.3	10.8	8.8	2.0	16.7	14.4	2.3	1.5	26.1	24.6	1.0	3.7	2.7	54.0	57.3	3.3
6 中	25.0	22.3	2.7	13.3	11.3	2.0	18.8	16.5	2.3	44.5	15.6	28.9	3.0	2.5	0.5	68.9	48.8	20.1
下	26.6	23.6	3.0	14.9	12.9	2.0	20.8	17.9	2.9	13.0	23.4	10.4	2.0	2.6	0.6	67.6	49.6	18.0
上	22.7	23.7	1.0	12.7	14.4	1.7	17.3	18.8	1.5	7.0	42.1	35.1	3.0	4.1	1.1	30.1	33.6	3.5
7 中	26.0	25.4	0.6	16.3	15.5	0.8	20.8	20.1	0.7	36.5	47.0	10.5	4.0	4.9	0.9	37.5	44.5	7.0
下	25.9	26.7	0.8	16.8	17.4	0.6	21.0	21.7	0.7	54.0	70.7	16.7	3.0	5.7	2.7	29.6	45.4	15.8
上	29.0	25.7	3.3	19.7	17.0	2.7	23.9	21.1	2.8	67.0	46.6	20.4	3.0	4.8	1.8	53.4	41.5	11.9
8 中	28.3	25.0	3.3	18.1	15.7	2.4	22.9	19.9	3.0	22.0	27.7	5.7	1.0	3.7	2.7	60.5	47.3	13.2
下	24.9	24.5	0.4	14.8	14.7	0.1	19.4	19.2	0.2	149.0	53.3	95.7	4.0	4.3	0.3	56.6	49.0	7.6
上	23.3	23.1	0.2	12.5	13.0	0.5	17.8	17.7	0.1	58.5	56.0	2.5	2.0	4.8	2.8	39.2	50.9	11.7
9 中	21.9	20.6	1.3	11.6	10.3	1.3	16.8	15.2	1.6	36.0	50.3	14.3	5.0	4.9	0.1	41.5	45.3	3.8
下	19.2	19.2	0.0	7.8	8.2	0.4	13.0	13.3	0.3	15.5	42.9	27.4	2.0	5.3	3.3	47.2	49.6	2.4
上	17.2	16.0	1.2	5.7	6.0	0.3	11.4	10.6	0.8	52.0	43.7	8.3	6.0	5.2	0.8	50.8	37.2	13.6
10 中	18.1	14.5	3.6	4.8	4.1	0.7	11.0	9.1	1.9	16.5	30.6	14.1	2.0	5.5	3.5	70.2	39.8	30.4
下	13.4	11.8	1.6	3.6	2.6	1.0	8.1	6.9	1.2	25.5	42.1	16.6	5.0	5.6	0.6	39.2	33.5	5.7

- 1) 比布アメダス観測値。
- 2) 平年は比布アメダス前10カ年の平均値。
- 3) 印は平年に比べて減を示す。

(1) 水 稲：やや良

事 由：出芽器使用による出芽の揃いは概ね良好であった。移植時の苗素質は主稈葉数が中苗、成苗とも平年並であったものの、育苗時の天候不順により草丈は中苗でやや徒長気味となり、地上部乾物重は平年並から劣っていた。移植翌日に強風が吹いたため苗の植え傷みがみられ、特に中苗が大きな損傷を受けた。さらに、移植から数日間はやや低温の日が続いたため、苗の活着は緩慢であった。

6月中旬の時点では主稈葉数、草丈は平年をやや上回り、 当たり茎数は移植直後の苗の植え傷みおよび天候不順の影響により平年を下回るものがあるものの回復傾向にあった。

幼穂形成期は平年より4～5日、止葉期は1～2日早かった。7月中旬の時点では 当たり茎数が平年より少ないものの、主稈葉数、草丈はほぼ平年並みであった。

出穂期は平年より1～2日早かった。穂揃いは良好で穂揃い日数は平年並か1日短かった。最終止葉葉数は成苗「きらら397」が平年に比べ0.4枚多く、中苗「きらら397」および中苗「ほしのゆめ」は平年より0.3～0.4枚少なかった。稈長は5～7cm程度短かった。穂長は中苗および成苗の「きらら397」が平年並、中苗「ほしのゆめ」はやや短かった。 当たり穂数は中苗「きらら397」が平年並であるものの、中苗「ほしのゆめ」および成苗「きらら397」は平年に比べ少なかった。

成熟期は中苗「ほしのゆめ」と成苗「きらら397」が平年並であったものの、中苗「きらら397」は平年より3日遅かった。登熟日数は中苗「ほしのゆめ」と成苗「きらら397」が平年並、中苗「きらら397」は平年より5日多かった。

[初数]：一穂初数は中苗および成苗の「きらら397」で平年よりやや少なく、中苗「ほしのゆめ」は平年の90%で少なかった。その結果、 当たり初数（ 当たり穂数×一穂初数）は中苗「きらら397」が31,000粒で平年よりやや少なく、中苗「ほしのゆめ」および成苗「きらら397」は27,000粒あまりで平年対比82～83%とかなり少なかった。

[稔実歩合・稔実初数]：稔実歩合は平年並であった。 当たり稔実初数（ 当たり初数×稔実歩合）は平年対比81～95%でかなり少なかった。

[登熟歩合・ 当たり登熟初数]：登熟歩合は平年をかなり上回った。 当たり登熟初数（ 当たり初数×登熟歩合）は中苗「きらら397」は平年並、中苗「ほしのゆめ」と成苗「きらら397」は平年をかなり下回った。

[精玄米千粒重]：平年並であった。

[精玄米重]：粒厚1.90 以上の収量は中苗「きらら397」が平年対比106%、中苗「ほしのゆめ」が同102%、成苗「きらら397」が同101%であった。

[検査等級]：中苗「ほしのゆめ」は2等、そのほかは1等であった。

以上、収量構成要素調査地点の稲が小出来であったことから平年対比で数値が下回る項目があったものの、いずれの品種・苗も収量が平年を上回り、品種・苗をこみにした収量の平年対比は103%であった。このため、今年の作況はやや良である。

表3 平成17年度 水稻の生育および収量

		品種・苗	きらら397・中苗		ほしのゆめ・中苗		きらら397・成苗		
		年次	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
生育期	播種期	(月・日)	4.15	4.17	4.15	4.17	4.13	4.14	
	移植期	(月・日)	4.18	5.20	5.18	5.20	5.18	5.20	
	幼穂形成期	(月・日)	6.27	7.01	6.25	6.29	6.23	6.28	
	止葉期	(月・日)	7.16	7.17	7.14	7.16	7.12	7.14	
	出穂期	(月・日)	7.25	7.27	7.25	7.26	7.23	7.24	
	穂揃日数	(日)	5	6	6	6	6	7	
	成熟期	(月・日)	9.14	9.11	9.08	9.09	9.10	9.10	
	登熟日数	(日)	51	46	45	45	49	48	
節	生育日数	(日)	152	147	146	145	150	149	
	草丈	()	11.4	9.6	11.8	10.4	10.5	11.1	
	葉数	(枚)	3.2	3.2	3.0	3.1	4.1	4.1	
地上部乾物重	(g/100本)	2.23	2.13	1.92	2.17	3.4	4.19		
本田生育	主稈葉数	6月10日	(枚)	6.4	6.3	6.1	5.9	7.2	6.7
		6月20日	(枚)	8.3	7.9	7.9	7.4	8.9	8.1
		6月30日	(枚)	9.7	9.4	9.2	8.9	10.3	9.5
		7月10日	(枚)	10.7	10.5	10.1	9.9	11.3	10.6
		7月20日	(枚)	11.0	11.4	10.2	10.5	11.4	11.0
		7月30日	(枚)	11.0	11.4	10.2	10.5	11.4	11.0
	当り茎数	6月10日	(本)	215	236	150	235	205	292
		6月20日	(本)	569	492	439	491	557	611
		6月30日	(本)	933	940	783	895	786	977
		7月10日	(本)	898	992	863	994	749	992
		7月20日	(本)	798	911	793	921	671	864
		7月30日	(本)	747	803	765	822	649	804
草丈	6月10日	()	22.5	22.4	21.9	23.6	24.4	24.5	
	6月20日	()	30.8	26.9	30.7	28.7	32.2	30.2	
	6月30日	()	46.1	38.7	50.9	40.7	48.2	40.9	
	7月10日	()	59.8	54.3	62.7	57.5	59.1	55.3	
	7月20日	()	67.9	67.5	74.8	72.6	70.2	71.3	
	7月30日	()	77.8	82.3	83.3	88.1	76.5	82.5	
本田生育	稈長	()	61.6	66.9	64.7	71.8	59.6	66.3	
	穂長	()	16.5	16.7	15.5	16.2	16.6	16.5	
	穂数	(本 /)	698	708	708	775	622	744	
	有効茎歩合	(%)	74.8	71.4	82.0	78.0	79.1	75.0	
収量構成要素	一穂籾数	(粒)	44.6	46.0	39.0	43.1	43.7	44.7	
	当籾数	(×1000粒)	31.1	32.6	27.6	33.4	27.2	33.2	
	稔実歩合	(%)	91.7	91.8	90.8	91.2	90.9	91.2	
	当稔実籾数	(×1000粒)	28.5	29.9	25.1	30.4	24.7	30.3	
	登熟歩合	(%)	83.6	78.7	88.6	80.6	87.1	80.7	
	当登熟籾数	(×1000粒)	91.2	85.7	97.6	88.4	95.8	88.4	
	精玄米千粒重	(g)	22.5	22.5	21.9	21.9	22.6	22.8	
	籾摺歩合	(%)	79.7	78.0	80.8	76.4	80.9	77.9	
屑米歩合	(%)	3.9	5.0	2.3	7.5	2.8	4.8		
収量	藁重	(ka/10a)	686	620	711	670	658	600	
	精籾重	(ka/10a)	773	746	693	720	738	756	
	籾藁比	(%)	113	120	97	107	112	126	
	精玄米重	(ka/10a)	616	582	560	550	597	589	
	収量比	(%)	106	100	102	100	101	100	
	検査等級		1	1	2上	1	1	1	

注1) 平年値 : 平成11、12、13、14、16年の5か年の平均。

注2) 千粒重 精玄米重 : 粒厚190mm以上。水分15.0%に換算。

(2) 秋まき小麦 : 良

事由: 播種期は平年より2日早い9月6日であり、出芽は良好であった。越冬前は、葉数が平年並みであったが、茎数は平年より多く、草丈も高かった。根雪終は平年より5日遅い4月16日であり、積雪期間は平年より3日長かった。雪腐病の発生は平年並みであり、菌種は雪腐褐色小粒菌核病がほとんどであった。越冬後の茎数は平年より多かったが、起生期後～5月中旬が低温寡照に経過したため、生育は停滞した。しかし、6月に入り好天に恵まれ、さらに適度な降雨があったため、生育は急激に旺盛になったが、出穂期は平年より6～7日遅かった。出穂後も概ね高温に経過し、干ばつ気味に推移した。成熟期は平年より2～3日遅く、成熟期における稈長、穂長は平年並みであったが、穂数は平年より8%多かった。千粒重は平年並みであり、リットル重が「ホクシン」が平年並み、「タイセツコムギ」は平年よりやや重かった。総重はほぼ平年並みであったが、子実重は「ホクシン」で平年比114%、「タイセツコムギ」で112%と多収であった。検査等級は平年をやや上回った。

したがって、本年の作況は良である。

表4 秋まき小麦の生育および収量

品 種 名		ホ ク シ ン			タイセツコムギ		
項 目	年 次	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
播種期	(月日)	9.6	9.8	2	9.6	9.8	2
出穂期	(月日)	6.14	6.7	7	6.18	6.12	6
成熟期	(月日)	7.19	7.16	3	7.23	7.21	2
越冬茎歩合	(%)	95.9	96.1	0.2	96.6	91.9	4.7
雪腐病発病度		32.9	29.9	3.0	43.8	43.9	0.1
葉数(枚)	H16.10.20	6.0	5.9	0.1	6.0	5.6	0.4
草 丈 (cm)	H16.10.20	34.4	26.4	8.0	35.0	27.6	7.4
	H17.5.20	28.7	43.4	14.7	28.7	44.2	15.5
	H17.6.20	90.3	93.0	2.7	89.0	92.4	3.4
茎 数 (本/)	H16.10.20	1805	1558	247	1921	1477	444
	H17.5.20	1367	1145	222	1231	1069	162
	H17.6.20	743	702	41	718	657	61
成 熟 期	稈長 (cm)	82	84	2	83	85	2
	穂長 (cm)	8.5	8.6	0.1	9.2	9.0	0.2
	穂数(本/)	700	648	52	613	569	44
総 重	(kg/10a)	1505	1493	12	1376	1389	13
子実重	(kg/10a)	672	591	81	634	566	68
同上	平年比 (%)	114	100	14	112	100	12
リットル重	(g)	781	777	4	778	767	11
千粒重	(g)	36.5	36.5	0	38.6	38.6	0
検査等級	(等)	2上	2中	-	2上	2下	-

注1) 平年値は、前7か年中、平成13年、14年(収穫年度)を除く5か年の平均値。

2) は平年より早を、 は平年より減を示す。

(3)大豆 : 良

事由：播種期は5月17日で、平年より2日早かった。播種後は低温に経過し、また、播種時の土壌水分が高く、その後の降雨により土壌がクラスト化したため、出芽勢は劣った。しかし、5月末になり気温が高く経過したため、出芽期は平年並みであった。出芽以降も気温は高く推移し、6月下旬から干ばつ傾向となったが、初期生育は順調であった。7月上旬にやや気温の低下がみられたが、開花期は平年より3日早かった。7月中旬に気象は平年並みに回復し、8月下旬以降も気温は平年並みからやや高い程度であり、登熟は順調であった。成熟期は「トヨムスメ」で平年より2日早い9月27日、「トヨコマチ」で平年並みの9月21日であった。主茎長は平年を下回った。しかし、主茎節数は平年並みで、分枝数は平年を若干上回った。着莢数は、開花期前後の低温と7月上旬の寡照傾向が影響し、8月20日の時点では平年を下回っていたが、その後、莢数の減少が見られず、収穫期には「トヨムスメ」は平年を上回り、「トヨコマチ」は平年並みであった。また、百粒重は両品種とも平年を大きく上回った。「トヨムスメ」は、着莢数、百粒重が平年を上回ったため、平年比119%の多収であった。「トヨコマチ」は着莢数は平年並であったが、百粒重が平年を上回り、収量は平年比107%であった。両品種共に、屑豆率は平年よりも低かった。検査等級は平年を上回った。

したがって、本年の作況は良である。

表5 大豆の生育および収量

品 種 名		ト ヨ ム ス メ			ト ヨ コ マ チ		
項 目	年 次	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
播種期	(月日)	5.17	5.19	2	5.17	5.19	2
出芽期	(月日)	6. 2	6. 2	0	6. 2	6. 2	0
開花期	(月日)	7.10	7.13	3	7. 7	7.12	5
成熟期	(月日)	9.27	9.29	2	9.21	9.21	0
主茎長 (cm)	6月20日	14.4	11.2	3.2	16.8	13.1	3.7
	7月20日	55	54	1	59	60	1
	8月20日	57	61	4	60	64	4
	9月20日	56	61	5	58	64	6
	成熟期	56	61	5	59	64	5
主茎 節数 (節)	6月20日	3.9	3.7	0.2	4.6	4.1	0.5
	7月20日	9.9	9.9	0	10.8	10.9	0.1
	8月20日	10.0	10.1	0.1	10.5	11.0	0.5
	9月20日	10.0	10.2	0.2	10.7	11.0	0.3
	成熟期	10.2	10.2	0	10.8	10.8	0
分枝数 (本 /株)	7月20日	6.8	6.9	0.1	6.2	6.5	0.3
	8月20日	8.2	7.4	0.8	7.8	6.4	1.4
	9月20日	7.3	7.0	0.3	6.8	6.2	0.6
	成熟期	7.6	7.0	0.6	7.1	6.2	0.9
着莢数 (個)	8月20日	80	84	4	73	82	9
	9月20日	83	72	11	74	73	1
	成熟期	81	75	6	71	72	1
子実重	(kg/10a)	506	433	73	439	412	27
同上	平年比 (%)	119	100	19	107	100	7
百粒重	(g)	41.9	38.2	3.7	41.2	36.0	5.2
屑豆率	(%)	0.9	1.9	1.0	1.2	1.5	0.3
検査等級	(等)	3中	3下	-	2下	3下	-

注1) 平年値は、前7か年中、平成12年及び平成14年を除く5か年の平均値。

2) は平年より早を示す。 は平年より減を示す。

(4) 小豆 : 平年並

事由: 播種期は5月26日で平年より6日遅かったが、その後気温が高めに推移し、土壌水分も適度であったため、出芽期はほぼ平年並みであった。出芽後の気温も7月上旬を除き高温に経過したため、開花期は平年より2~3日早く、主茎長および本葉数は平年をやや上回った。その後、気温は7月下旬は平年よりやや低かったが、8月上中旬は高温に経過したため登熟は進み、成熟期は平年より一週間程度早かった。

主茎長は両品種ともほぼ平年並で、分枝数は「サホロショウズ」は平年並であったが、「エリモショウズ」は平年よりやや少なかった。着莢数は両品種ともほぼ平年並であった。百粒重は「サホロショウズ」では平年に比べ1.5g軽かったが、「エリモショウズ」では平年に比べ0.3%重かった。子実重は「サホロショウズ」では平年比94%、「エリモショウズ」では平年比100%であった。屑豆率は両品種とも平年より低かったが、子実に色むらがあり検査等級は平年を下回った。

したがって、本年の作況は平年並である。

表6 小豆の生育および収量

品 種 名		サホロショウズ			エリモショウズ		
項 目	年 次	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
播種期	(月日)	5.20	5.26	6	5.20	5.26	6
出芽期	(月日)	6.5	6.6	1	6.6	6.6	0
開花期	(月日)	7.17	7.19	2	7.18	7.21	3
成熟期	(月日)	8.23	9.1	9	9.1	9.6	5
主茎長 (cm)	6月20日	4.7	4.1	0.6	5.3	4.5	0.8
	7月20日	31	27	4	29	26	3
	8月20日	58	63	5	56	61	5
	成熟期	59	62	3	61	62	1
本葉数 (枚)	6月20日	1.2	0.8	0.4	1.2	0.7	0.5
	7月20日	8.1	7.5	0.6	8.5	7.9	0.6
	8月20日	11.5	11.3	0.2	13.2	12.1	1.1
分枝数 (本/株)	7月20日	5.5	5.6	0.1	5.2	5.6	0.4
	8月20日	6.2	6.2	0	4.9	6.4	1.5
	成熟期	6.2	6.2	0	4.9	6.4	1.5
着莢数 (個)	成熟期	63	61	2	62	59	3
子実重 (kg/10a)		349	371	24	370	371	1
同上平年比 (%)		94	100	6	100	100	0
百粒重 (g)		12.4	13.9	1.5	13.0	12.7	0.3
屑豆率 (%)		0.7	2.5	1.8	0.9	1.5	0.6
検査等級 (等)		3中	2中	-	3下	3上	-

注1) 平年値は、前8か年中、平成14年(最豊)、平成16年(最凶)、平成12年(参考)を除く5か年の平均値。

2) は平年より早を示す。 は平年より減を示す。

(5) ばれいしょ : 平年並

事由: 植付期は5月6日で平年より1日早かった。その後気温がきわめて低く経過したため、萌芽期は平年より10日遅れた。5月末以降は天候が回復し高温に経過したため、生育はやや回復したが、開花始は平年より4~5日遅かった。また、開花期頃は降水量がきわめて少なく干ばつにより一時生育が止まった。その後、7月上旬を除き高温に経過したが全般的に降水量が少なかったため塊茎の生育、肥大が停滞し、7月および8月の試し掘りの結果では、株当たりのいも数が少なくでんぷん価も低かった。「男爵いも」は8月中旬になり一部枯葉や茎の黄化がみられたが、8月下旬以降も高温傾向が続きまた降水量も多かったため、「農林1号」とも枯凋期が大幅に遅れた。

「農林1号」の枯凋期は平年に比べ19日遅い10月8日であった。上いも重および中以上いも重はともに平年対比97%であった。でん粉価は平年に比べ1.4%低く、でん粉収量は平年対比86%と低収であった。

「男爵いも」の枯凋期は平年に比べ23日遅い9月15日であった。上いも重は平年対比107%、中以上いも重は平年対比109%であった。でん粉価は平年より1.0%低かった。

したがって、本年の作況は平年並である。

表7 ばれいしょの生育および収量

品 種 名		農 林 1 号			男 爵 薯		
項 目	年 次	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
植付期	(月日)	5.6	5.7	1	5.6	5.7	1
萌芽期	(月日)	6.2	5.23	10	6.2	5.23	10
開花始	(月日)	6.27	6.22	5	6.27	6.23	4
枯凋期	(月日)	10.8	9.19	19	9.15	8.23	23
茎 長 (cm)	6月20日	25.4	34.8	9.4	23.7	32.8	9.1
	7月20日	65.2	71.7	6.5	50.2	41.7	8.5
	8月20日	71.4	78.9	7.5	-	-	-
上いも収量(kg/10a)		5584	5779	195	5193	4866	327
中以上いも収量(kg/10a)		4979	5123	144	4415	4050	365
でん粉価(%)		14.0	15.4	1.4	13.1	14.1	1.0
でん粉収量(kg/10a)		724	841	117	628	636	8
対平年比	上いも収量	97	100	3	107	100	7
	中以上いも収量	97	100	3	109	100	9
	でん粉収量	86	100	14	99	100	1

注1) 平年値は、前7か年中、平成11年、15年を除く5か年の平均値。但し、茎長は平成14年を除く6か年の平均値。

2) は平年より早を、 は平年より減を示す。

(6) てんさい : 良

事由：播種期は平年より1日遅い3月28日であり、発芽期は平年より1日遅かった。育苗中の4月下旬から苗枯病が発生し、子葉の黄化、しおれ症状が認められ、生育むらが大きくなるなど被害はやや大きかった。移植期は平年より3日早い5月2日であり、移植後の活着は良好であったが、5月は低温寡照に推移したため生育が停滞した。6月以降は、6月中旬～7月上旬が干ばつ気味に経過したが、生育は徐々に回復し、8月20日の時点で生育は平年並みに回復した。収穫は平年より3日早い10月14日に行った。収穫期における茎葉重は平年より重く、根中糖分が概ね平年並みであった一方で、根重は平年比106%と重く、糖量では平年比108%と多収であった。

したがって、本年の作況は「良」である。

表8 てんさいの生育および収量

品 種 名		モ ノ ホ マ レ		
項 目	年 次	本 年	平 年	比 較
播種期	(月日)	3.28	3.27	1
発芽期	(月日)	4.5	4.4	1
移植期	(月日)	5.2	5.5	3
収穫期	(月日)	10.14	10.17	3
草 丈 (cm)	5月20日	4.0	6.7	2.7
	6月20日	30.1	38.5	8.4
	7月20日	47.2	59.1	11.9
	8月20日	61.8	61.1	0.7
	9月20日	63.3	60.5	2.8
生葉数 (枚/株)	5月20日	2.7	5.1	2.4
	6月20日	15.4	13.5	1.9
	7月20日	22.4	25.0	2.6
	8月20日	32.7	29.6	3.1
	9月20日	34.6	32.5	2.1
根 周 (cm)	7月20日	21.7	24.6	2.9
	8月20日	30.1	29.7	0.4
	9月20日	33.6	34.2	0.6
茎葉重 (kg/10a)		4971	4854	117
根重 (kg/10a)		8358	7902	456
根中糖分 (%)		17.34	17.02	0.32
糖量 (kg/10a)		1447	1338	109
対平年比	根重	106	100	6
	根中糖分	102	100	2
	糖量	108	100	8

注1) 平年値は前7か年中、平成11年、15年を除く5か年の平均値。

2) は平年より早を、 は平年より減を示す。